

子どもたちとの交流

ゆずっこ高西には併設の保育園があり、コンセプトは「子どもたちとかわることで自然に心と体が動き、元気になる」です。子どもたちがいるとご利用者の表情も自然と笑顔になり、園庭まで子どもたちの様子を見に行こうと動くことで自然と活動量が増え、歩行訓練にもなっています。ゆずっこ高西のご利用者の中には、子どもが好きで利用を始められた方もいます。

1 日常的な交流 ～見守り・遊び相手などの役割～



ママごと遊びをする子どもたちに声を掛けるご利用者

スタッフは、ママごとを始めた子どもたちのところに自然にご利用者を案内するなど、子どもたちとの関係性が構築されるようサポート



子どもたちが遊びやすいように園庭の掃除をするご利用者

子どもたちが遊んでいるときに園庭の掃除をすることで、「あの子たちのためにやっている」と掃除の目的が分かりやすく、達成感も高まる

2 行事での交流 ～準備から当日の役割～



保育園の行事「お店屋さんごっこ」でクッキー屋の店番をするご利用者

- ・保育園のスタッフと月に1回打ち合わせを行い、イベントの準備や当日の役割などを決める
- ・「お店屋さんごっこ」で園児が使う袋をご利用者が新聞紙で作成。当日、園児が袋を使っている様子を見て、役立っていることを実感できる
- ・保育園の模擬通貨を使って買い物に来る子どもたちの対応をすることで、機能訓練につながる

併設のメリット

デイサービス	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちと交流することでご利用者の表情が柔らかくなる ・子どもたちのために動こうとする（役割が生まれる）
保育園	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者との交流は子どもの社会性を育む ・スタッフの確保につながる（園児の半数以上がスタッフの子どもで、求職者に選ばれるポイントにもなっている）
フリーハウス	<ul style="list-style-type: none"> ・デイサービスなどを利用されるケースがある ・併設のため顔を合わせる機会があり、顔なじみの関係性をつくりやすい

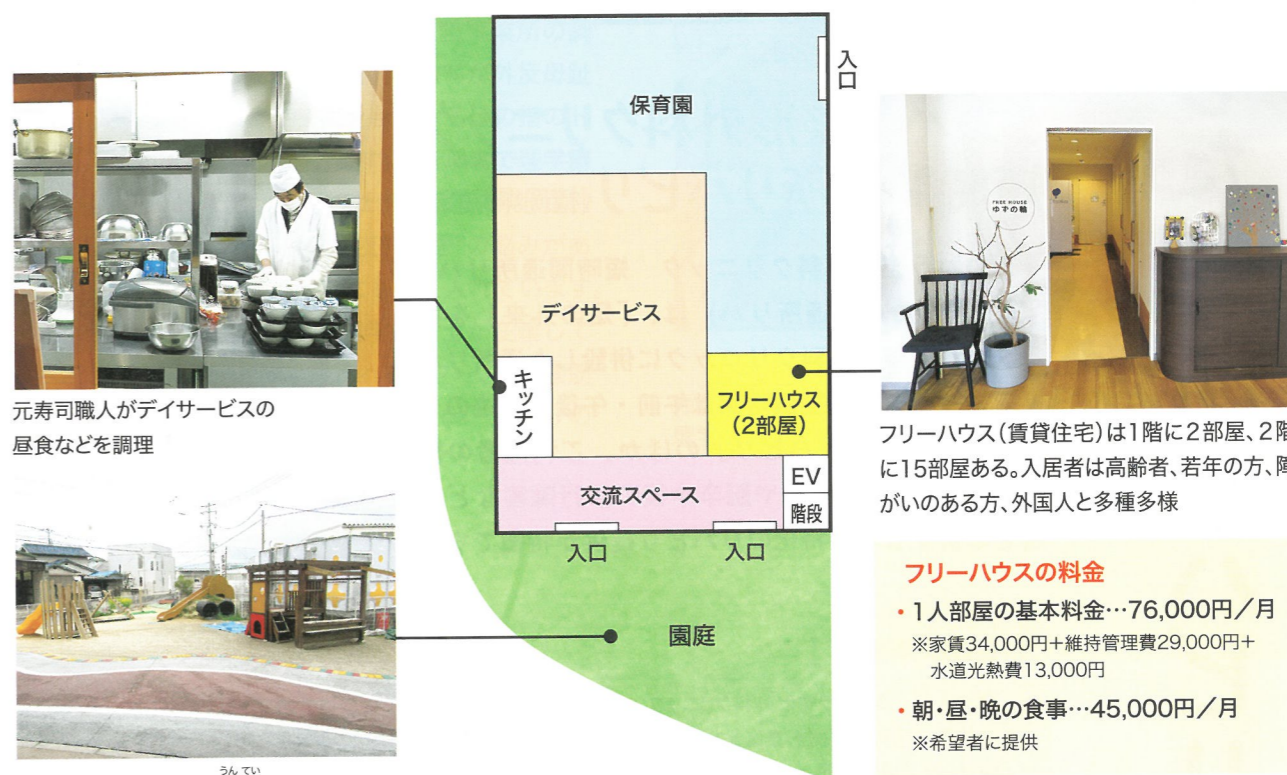
月に1回の特別メニュー

デイサービス内にキッチンがあり、デイサービスの昼食、フリーハウスの朝食・昼食・夕食、近隣にある同法人の看護小規模多機能の昼食・夕食を作っています（50～60名分）。料理長は元寿司職人で、ご利用者は月1回のお寿司の日（特別メニュー）を楽しみにしています。



月1回のお寿司の日。
いなり寿司はご利用者と一緒で作っている

全体図（1階）



園庭には、すべり台や雲梯、ママごとハウス、三輪車ロードなどがある

新施設の内覧会も大盛況

同法人は今年の4月に「看多機ホームみそのっこ」「グループホームみそのっこ」を広島県東広島市にオープンしています（学生シェアハウスを併設）。内覧会ではご利用者もスタッフとして参加し、法人の本社がある尾道市の物産展などを併せて行うことで300人以上が訪れました。今年はこのような地域の活性化も兼ねた取り組みを多数行っていく予定です。



看多機ホームみそのっこ・グループホームみそのっこの外観